

## 再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課  
担当課長名：三浦 真紀

<b>事業名</b> ：一般国道34号 <small>かんざきさが</small> 神崎佐賀拡幅	<b>事業区分</b> ：一般国道	<b>事業主体</b> ：国土交通省 九州地方整備局
<b>起終点</b> ：起点：佐賀県神崎市神崎町本告牟田 終点：佐賀県佐賀市兵庫町大字洲		<b>延長</b> ：5.2km
<b>事業概要</b> ：国道34号神崎佐賀拡幅は、佐賀市東部や神崎市の交通混雑緩和と交通安全の確保や沿道環境の改善を目的とした、延長5.2kmの現道拡幅事業である。		
H3年度都市計画決定		H4年度事業化
H7年度用地着手		H12年度工事着手
<b>全体事業費</b> ：約153億円	<b>事業進捗率</b> ：67%	<b>供用済延長</b> ：2.9 km
<b>計画交通量</b> ：23,700～35,500台/日		
<b>費用対効果分析結果</b>	<b>B / C</b> ： <small>(事業全体)</small> 1.6 <small>(残事業)</small> 3.6	<b>総費用</b> ： <small>(残事業)/(事業全体)</small> 37/169億円 <small>(事業費：32/152億円)</small> <small>(維持管理費：5.7/17億円)</small>
<b>総便益</b> ： <small>(残事業)/(事業全体)</small> 136/276億円 <small>(走行時間短縮便益：115/249億円)</small> <small>(走行経費減少便益：18/16億円)</small> <small>(交通事故減少便益：3.2/11億円)</small>		<b>基準年</b> ：平成22年
<b>感度分析の結果</b> ：残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C=4.6（交通量 +10%） B/C=2.9（交通量 -10%） 事業費変動：B/C=3.3（事業費 +10%） B/C=4.0（事業費 -10%） 事業期間変動：B/C=3.2（事業期間+20%） B/C=4.0（事業期間-20%）		
<b>事業の効果等</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>交通混雑の緩和</li> <li>・上犬童交差点の渋滞緩和（供用前470m 供用後170m）</li> <li>・旅行速度の向上（30.1km/h 49.4km/h）</li> <li>・国道34号の損失時間の削減（32.8万人時間/年 1.8万人時間/年）</li> <li>・混雑度の低下（1.73 0.74）</li> <li>・所要時間の信頼性向上による便益【約10億円】</li> <li>交通安全性の向上</li> <li>・死傷事故率の低下（162件/億台和 29.5件/億台和）</li> <li>・国道34号の交通事故件数の削減（38件/年 9件/年）</li> <li>救急医療活動の支援</li> <li>・救急医療活動のアクセス時間の短縮とアクセスが向上する人口（約3分，約1.6万人）</li> <li>・救急医療活動路アクセス向上便益【約17億円】</li> <li>沿道環境の改善</li> <li>・沿線地域の騒音レベル低減（昼間74dB 67dB，夜間72dB 66dB）</li> <li>地域開発の支援</li> <li>・主要な集客施設へのアクセス性向上により地域開発を支援（吉野ヶ里歴史公園・兵庫北土地区画整理事業 など）</li> <li>良好な景観形成への配慮</li> <li>・歩道部に植栽帯などを設け景観に配慮</li> </ul> <p>は、供用後50年間の便益額として試算した値（参考値）</p>		
<b>関係する地方公共団体等の意見</b> 神崎市をはじめとする沿線3市1町で構成される国道34号（神崎佐賀拡幅・江北バイパス）整備促進期成会（会長：佐賀市長）等により早期整備の要望を受けている。（平成22年7月）		
<b>県知事の意見</b> ： 早期整備を強く望んでいるところであり、継続することについては異議ありません。		
<b>事業評価監視委員会の意見</b> 審議の結果、事業継続。		

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

上犬童交差点～堀立交差点間の部分供用(L=2.9km,H22.10)によって、渋滞交差点の解消が図られたものの、残る2車線区間では交通量の増加に伴い、依然として慢性的な交通混雑の状況を呈している。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成21年度末の事業進捗率は、事業費ベースで約67%であり、そのうち用地進捗率は約63%に達している。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

地元や関係機関との協力体制のもと、引き続き残区間等の用地買収などの事業進捗を図っていく。

施設の構造や工法の変更等

- ・堀立の立体交差点計画は、当面の間平面交差点として整備することによる減【約15億円】
- ・橋梁の架け替えに伴い、耐候性鋼材や鋼管ソイルセメント杭を採用することによるコスト縮減【約2億円】

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上事業の効果、事業評価監視委員会における審議、知事等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。

事業概要図



総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。